

旅順博物館所蔵の浄土教写本について

The Chinese Manuscripts of Pure Land Buddhism in the Lushun Museum

MITANI Mazumi

三 谷 真 澄

概 要

本稿は、旅順博物館所蔵の26,000点に及ぶ漢文断片群の中から、165点の浄土教写本が確認されたことを紹介し、併せて、4－5世紀に書写された浄土教写本の中でも最古級に属する5点の〈無量寿経〉写本の概要を示す。さらに、それが失われた翻訳・竺法護の初期〈無量寿経〉の可能性に言及する。

キーワード：旅順博物館 大谷探検隊 浄土教 漢文写本 無量寿経

Abstract

In the Lushun museum there are many items excavated in the Xinjiang region that had been brought by the Otani mission. I will introduce the outline of 165 fragments of Chinese manuscripts of Pure Land Buddhism from among 26,000 fragments, and especially present five fragments of Wuliangshou-jing text transcribed in about the 4th-5th century. In addition, I will suggest the possibility that this text was translated by Dharmarakṣa.

Keywords: Lushun Museum, Otani Mission, Pure Land Buddhism, Chinese Buddhist Fragments, Wuliangshou-jing

1 大谷探検隊収集品と旅順博物館

1902年より1914年まで三次にわたって派遣された大谷探検隊は、日本唯一の組織的な中央アジア探検であるとともに、世界で唯一の、仏教者の仏教者による仏教者のための探検という意義を有しているであろう。

大谷探検隊は、後に西本願寺第22代宗主となった大谷光瑞師によって派遣されたもので、その収

集品は、種々の事情から、龍谷大学を含む日本、中国、韓国に分散してしまった¹⁾。中国旅順博物館には、その一部が保管されているのである。

1917年に創立した旅順博物館は、60,000点を越える文物を所蔵しているが、そのうち「新疆出土文物」と呼ばれる資料が、大谷探検隊の収集品に他ならない。その資料は、陶器・泥塑・陶塑・木器・貨幣・宗教絵画・紡績品・文書・その他に分類され、計1,714件に及ぶ。大谷探検隊が収集対

象とした仏典を中心とする文書資料は、漢字資料と非漢字資料に大別され、前者は97件約26,000点、後者は33件433点が蔵されている。

漢字資料については、2002年度より2005年度にかけ、科学研究費補助金（研究代表者：上山大峻氏）の交付を受け、同館所蔵の漢文仏典写本及び版本の共同研究が行われた。ほぼ所期の目的を果たし、2006年に、元康六年（296）書写の『諸仏要集經』写本の離片14点を含む1,429点の断片を収録した図録、及び研究論文集が出版された²⁾。

旅順博物館は、外国人未解放地区に位置しており、1992年3月に、龍谷大学の上山大峻、小田義久、木田知生の三教授が、旅順博物館関係者と大連市内で面会した際には、旅順を訪問することすらできなかったという。しかし以後、毎年訪問を続けられたことが実を結び、多数の写本断片が貼付された「藍冊」と呼ばれるファイルを研究対象とする共同研究がスタートし、2007年にはその研究成果の一部が青森で展示された³⁾。

2 旅順博物館所蔵新疆出土写本

探検隊を組織した大谷光瑞師が最も希求した仏典は浄土經典であったに違いない。収集された写本群は、日本で橘瑞超らによって整理調査され、同定できた写本については、法華經（10冊）、涅槃經・般若經類（合計で3冊）、浄土經論は「浄土一」（1冊）として藍色のファイルに貼付されている⁴⁾。しかし、「浄土一」と表記されたファイルに貼付された浄土經論は81点のみであり、今回の研究によって加えられた84点を加えても全点に占める割合は1パーセントにも満たない⁵⁾。このように点数としては寡少であったが、それこそが地理学・考古学上の発見を旨とする探検隊員でなく、浄土真宗の僧侶・仏教者として彼らが求めたものであった。1912年に刊行された『二楽叢書』⁶⁾の第1号が、浄土經論の釈文からなっていることはその証左であろう。

槃經・般若經類（合計で3冊）、浄土經論は「浄土一」（1冊）として藍色のファイルに貼付されている⁴⁾。しかし、「浄土一」と表記されたファイルに貼付された浄土經論は81点のみであり、今回の研究によって加えられた84点を加えても全点に占める割合は1パーセントにも満たない⁵⁾。このように点数としては寡少であったが、それこそが地理学・考古学上の発見を旨とする探検隊員でなく、浄土真宗の僧侶・仏教者として彼らが求めたものであった。1912年に刊行された『二楽叢書』⁶⁾の第1号が、浄土經論の釈文からなっていることはその証左であろう。

3 浄土經論のリスト

図録のリストから浄土經論のみを抜粋して165点の概要を以下に示す。（大正蔵同定箇所の順）

- A：通番号
- B：断片番号
- C：典籍名
- D：巻
- E：大正蔵同定箇所
- F：サイズ（cm）
- G：書写年代
- H：藍冊表題
- I：図録収載頁（*は新たに判明したもの）

A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	LM20_1471_29_01	佛說廣博嚴淨不退轉輪經	卷第六	T09_0268_0282a13-19	7.3×5.7	C3	浄土一	112
2	LM20_1471_02_02	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0266b28-c02	12.2×7.5	C2	浄土一	113
3	LM20_1471_02_03	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0266c27-0267a04	26.5×13.5	C2	浄土一	114
4	LM20_1471_03_01	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0267a06-09	4.4×5.9	C2	浄土一	114
5	LM20_1471_03_02	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0267a07-13	10.1×10.8	C2	浄土一	114
6	LM20_1509_1622	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0267c-0268a	6.3×5.3	C1	写經残片	114
7	LM20_1509_1622	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0268c29-0269a02	6.2×5.3	C1	写經残片	114
8	LM20_1509_1622	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0269a19-22	5.7×4.3	C1	写經残片	114
9	LM20_1452_14_12	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0269a25-26	6.0×4.1	C3	經帖三	114
10	LM20_1509_1612	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0269a25-27	4.9×5.1	C3	写經残片	114
11	LM20_1471_03_03	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0269b07-11	7.8×5.2	C2	浄土一	114
12	LM20_1519_11_05	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0269b26-c01	3.8×4.6	A	佛經残片	47
13	LM20_1471_03_04	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0271a02-04	5.4×5.6	C2	浄土一	114
14	LM20_1461_37_01	佛說無量壽經	卷上	T12_0360_0272a04-08	4.9×5.8	C2	經帖十二	114
15	LM20_1461_33_19	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0272c01-06	7.2×7.0	C2	經帖十二	114
16	LM20_1500_28_02	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0273c11-14	4.7×7.0	C2	小帳十（經文残片）	114
17	LM20_1493_10_04	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0274a12-14	6.8×4.7	C1	小帳三	114
18	LM20_1461_17_12	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0274c01-05	8.8×8.9	C3	經帖十二	114
19	LM20_1456_03_16	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0274c20-24	8.8×9.6	C1	經帖七	115
20	LM20_1519_11_07	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0275a27-29	4.1×5.0	C1	佛經残片	*
21	LM20_1464_27_17	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0275b02-04	6.3×4.4	C2	經帖十五	*
22	LM20_1471_04_01	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0275b11-13	6.4×6.0	C3	浄土一	115
23	LM20_1471_04_02	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0275b13-15	9.3×5.7	C1	浄土一	115
24	LM20_1457_11_03	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0275c17-20	12.3×9.6	C1	經帖八	115

A	B	C	D	E	F	G	H	I
25	LM20_1471_04_03	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0275c19-24	11.5×11.3	C2	淨土一	115
26	LM20_1452_06_07-2	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0275c20-23	8.6×4.5	C3	經帖三	115
27	LM20_1465_34_01	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0276b24-25	6.1×3.1	C2	經帖十六	*
28	LM20_1471_05_01	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0278a14-17	12.9×8.0	C2	淨土一	115
29	LM20_1471_05_02	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0278a18-20	11.3×7.0	C2	淨土一	115
30	LM20_1471_05_03	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0278a27-b01	5.4×7.3	C2	淨土一	115
31	LM20_1471_06_01	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0278b07-c06	9.0×21.0	C2	淨土一	116
32	LM20_1519_11_06	佛說無量壽經	卷下	T12_0360_0278c20-22	3.6×3.2	A	佛經殘片	47
33	LM20_1490_14_01	佛說無量清淨平等覺經?	卷第三	T12_0361_0293b16-20	19.5×4.2	AA	涅槃般若經二	5
34	LM20_1462_29_01	佛說無量清淨平等覺經?	卷第三	T12_0361_0293b20-24	16.6×6.0	AA	經帖十三	5
35	LM20_1454_08_07	佛說無量清淨平等覺經?	卷第三	T12_0361_0293b26-c01	19.8×6.7	AA	經帖五	5
36	LM20_1462_35_01	佛說無量清淨平等覺經?	卷第三	T12_0361_0293c02-07	20.2×6.3	AA	經帖十三	5
37	LM20_1453_17_03	佛說無量清淨平等覺經?	卷第三	T12_0361_0293c08-14	20.0×7.9	AA	經帖四	5
38	LM20_1519_10_12	佛說阿彌陀三耶三佛薩樓佛檀過度人道經	卷下	T12_0362_0310b13-15	4.5×3.1	C2	佛經殘片	116
39	LM20_1471_08_01	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0341a14-18	5.8×5.3	C2	淨土一	116
40	LM20_1456_13_09	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0341a17-22	7.4×8.7	C2	經帖七	116
41	LM20_1471_08_02	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0341b07-10	6.5×7.5	C2	淨土一	116
42	LM20_1519_11_01	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0341c01-03	6.0×9.9	C2	佛經殘片	116
43	LM20_1464_03_07	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0341c07-09	7.8×8.3	C2	經帖十五	116
44	LM20_1471_08_03	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342a02-04	9.8×6.3	C3	淨土一	116
45	LM20_1471_08_04	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342a07-08	11.0×3.6	C2	淨土一	117
46	LM20_1471_09_01	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342a08-11	11.0×8.0	C2	淨土一	117
47	LM20_1507_1006	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342a15-18	4.3×5.3	C1	經文殘片	117
48	LM20_1471_09_02	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342a17-20	11.0×9.7	C2	淨土一	117
49	LM20_1519_11_02	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342b08-10	7.9×5.7	C2	佛經殘片	117
50	LM20_1471_09_03	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342b13-19	11.0×11.0	C2	淨土一	117
51	LM20_1471_09_04	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342b18-24	16.2×9.4	C2	淨土一	117
52	LM20_1471_10_01	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342b22-c03	21.0×18.0	C2	淨土一	117
53	LM20_1471_10_04	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342c08-12	14.5×10.5	C2	淨土一	118
54	LM20_1471_10_02	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0342c17-20	10.3×8.7	C2	淨土一	118
55	LM20_1471_10_03	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0343a01-04	18.9×7.2	C3	淨土一	118
56	LM20_1455_05_11	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0343b08-10	6.0×6.6	C1	經帖六	118
57	LM20_1519_11_03	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0343c06-08	3.9×4.4	C2	佛經殘片	118
58	LM20_1471_11_01	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0343c13-16	10.4×6.3	C2	淨土一	118
59	LM20_1471_11_02	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0343c15-16	8.2×4.1	C2	淨土一	118
60	LM20_1471_11_03	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0343c17-21	12.4×9.1	C2	淨土一	118
61	LM20_1517_427	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0343c26-27	4.1×4.4	C2	寫經殘片	118
62	LM20_1452_04_25	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0344a05-10	5.5×10.5	C1	經帖三	118
63	LM20_1471_11_04	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0344a11-19	12.1×14.2	C2	淨土一	119
64	LM20_1504_413上	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0344a12-16	6.5×7.4	C1	經文殘片	119
65	LM20_1471_12_01	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0344c20-0345a02	15.5×14.0	C2	淨土一	119
66	LM20_1456_23_23	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345a02-04	4.6×6.6	C2	經帖七	119
67	LM20_1471_12_02	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345a08-13	4.8×10.6	C2	淨土一	119
68	LM20_1471_12_03	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345a12-16	9.4×11.0	C2	淨土一	119
69	LM20_1471_12_04	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345a23-25	6.6×5.0	C2	淨土一	119
70	LM20_1471_13_01	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345a28-29	8.5×5.3	C1	淨土一	120
71	LM20_1505_688	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345a29-b01	8.5×5.5	C2	殘片	120
72	LM20_1471_13_02	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345b02-04	7.0×5.0	C2	淨土一	120
73	LM20_1471_13_03	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345b16-18	7.0×5.8	C1	淨土一	120
74	LM20_1503_266	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345b21-c01	12.6×13.7	C2	經帖殘片	120
75	LM20_1471_13_04	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345b26-c01	8.3×11.8	C2	淨土一	120
76	LM20_1503_195	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345c02-07	15.2×14.2	C2	經帖殘片	120
77	LM20_1471_13_05	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345c16-20	7.9×7.5	C3	淨土一	121
78	LM20_1471_14_01	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0345c25-0346a03	14.2×13.0	C2	淨土一	121
79	LM20_1471_14_02	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0346a06-12	9.7×11.5	C2	淨土一	121
80	LM20_1456_31_12	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0346a08-12	7.2×7.5	C2	經帖七	121
81	LM20_1471_14_03	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0346a12-13	5.9×6.2	C2	淨土一	121
82	LM20_1471_14_04	佛說觀無量壽佛經		T12_0365_0346b13-18	12.0×8.3	C1	淨土一	121
83	LM20_1506_0880	佛說阿彌陀經		T12_0366_0346c01-03	6.4×4.2	A	殘片	*
84	LM20_1471_17_03	佛說阿彌陀經		T12_0366_0346c03-05	5.1×5.1	C3	淨土一	122
85	LM20_1471_16_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0346c07-12	10.3×7.0	C3	淨土一	122
86	LM20_1497_31_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0346c11-14	4.9×5.6	C2	小帳七(經文殘片)	122
87	LM20_1471_16_02	佛說阿彌陀經		T12_0366_0346c12-16	6.5×8.0	C2	淨土一	122
88	LM20_1471_16_03	佛說阿彌陀經		T12_0366_0346c14-0347a02	4.5×7.5	C2	淨土一	122
89	LM20_1471_16_04	佛說阿彌陀經		T12_0366_0346c15-0347a04	9.5×12.5	C2	淨土一	122
90	LM20_1471_17_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a04-10	26.8×11.0	C3	淨土一	122
91	LM20_1471_17_02	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a06-09	11.2×7.8	C3	淨土一	122

A	B	C	D	E	F	G	H	I
92	LM20_1514_0476	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a07-10	6.2×6.1	C2	寫經殘片	123
93	LM20_1519_10_13	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a08-09	2.5×4.3	C2	佛經殘片	*
94	LM20_1471_17_04	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a10-11	6.3×3.2	C2	淨土一	123
95	LM20_1471_18_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a13-b03	15.2×47.6	C2	淨土一	123
96	LM20_1490_15_12	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a16-22	5.7×12.3	C3	涅槃般若經二	123
97	LM20_1471_17_05	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a18-22	4.5×7.5	C2	淨土一	123
98	LM20_1502_133	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a20-27	5.3×12.8	C2	經文殘片	122
99	LM20_1506_0923	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a22-24	3.8×6.7	C2	殘片	*
100	LM20_1506_0784	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347a27-29	5.8×5.2	C2	殘片	123
101	LM20_1459_19_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b01-02	16.3×4.5	C3	經帖十	123
102	LM20_1471_18_02	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b01-04	7.3×8.4	C2	淨土一	123
103	LM20_1471_18_03	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b01-06	10.1×11.0	C2	淨土一	123
104	LM20_1506_0936	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b-0348a	6.6×4.0	C2	殘片	*
105	LM20_1471_19_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b04-07	7.8×8.7	C2	淨土一	124
106	LM20_1471_19_02	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b17-21	20.8×12.0	C3	淨土一	124
107	LM20_1471_20_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b19-23	7.5×9.2	C2	淨土一	124
108	LM20_1471_22_03	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b20-23etc.	9.5×2.2	C3	淨土一	125
109	LM20_1450_27_08	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b21-24etc.	5.0×9.4	D	經帖一	179
110	LM20_1471_22_04	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b22-23etc.	7.5×4.1	C3	淨土一	125
111	LM20_1520_16_09	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b25-28	7.2×6.3	C2	佛經殘片	*
112	LM20_1471_20_02	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b26-29	11.3×8.0	C2	淨土一	124
113	LM20_1471_20_03	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347b26-c01	9.0×8.1	C2	淨土一	124
114	LM20_1471_21_02	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347c01-06	7.0×9.3	C3	淨土一	124
115	LM20_1471_20_04	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347c01-10	7.8×14.3	C2	淨土一	124
116	LM20_1471_21_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347c02-08	11.2×10.3	C2	淨土一	124
117	LM20_1458_28_07	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347c02-09	4.5×13.0	C2	經帖九	124
118	LM20_1461_17_16	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347c09-12	4.5×6.5	C3	經帖十二	125
119	LM20_1471_21_03	佛說阿彌陀經		T12_0366_0347c12-0348a01	12.6×15.4	C3	淨土一	125
120	LM20_1471_22_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0348a01-11	3.6×6.6	C3	淨土一	125
121	LM20_1519_10_14	佛說阿彌陀經		T12_0366_0348a02-05	3.9×5.5	C2	佛經殘片	125
122	LM20_1471_22_02	佛說阿彌陀經		T12_0366_0348a03-05	8.0×6.2	C2	淨土一	125
123	LM20_1471_22_05	佛說阿彌陀經		T12_0366_0348a14-18	4.5×8.5	C2	淨土一	125
124	LM20_1471_23_01	佛說阿彌陀經		T12_0366_0348a14-27	10.3×12.5	C3	淨土一	125
125	LM20_1471_23_02	稱讚淨土佛攝受經		T12_0367_0349c27-0350a06	12.4×15.4	C2	淨土一	125
126	LM20_1456_27_05	稱讚淨土佛攝受經		T12_0367_0350a26-29	8.2×8.0	C2	經帖七	126
127	LM20_1451_32_01	阿彌陀佛說咒		T12_0369_0352a23-28	7.5×6.2	C3	經帖二	126
128	LM20_1456_13_13	阿彌陀佛說咒		T12_0369_0352a27-b03	3.9×7.2	C3	經帖七	126
129	LM20_1503_200	十住毘婆沙論	卷第一	T26_1521_0023c11-26	10.7×17.4	AA	經帖殘片	21
130	LM20_1502_095	十住毘婆沙論	卷第四	T26_1521_0036b06-13	9.0×4.1	A	經文殘片	61
131	LM20_1461_08_07	十住毘婆沙論	卷第五	T26_1521_0042c24-28	8.0×9.7	C3	經帖十二	145
132	LM20_1512_0133	十住毘婆沙論	卷第五	T26_1521_0043a05-08	10.8×9.8	C2	寫經殘片	145
133	LM20_1471_29_02	十住毘婆沙論	卷第五	T26_1521_0044a03-05	14.0×8.4	C3	淨土一	145
134	LM20_1458_37_13	十住毘婆沙論	卷第八	T26_1521_0060a06-11	11.3×7.4	A	經帖九	61
135	LM20_1497_25_01	十住毘婆沙論	卷第八	T26_1521_0061b15-19	13.2×4.3	AA	小帳七（經文殘片）	21
136	LM20_1501_29_09	十住毘婆沙論	卷第十	T26_1521_0072a04-07	5.1×5.4	A	小帳十一（經文殘片）	61
137	LM20_1520_12_08	十住毘婆沙論	卷第十	T26_1521_0073c05-08	8.5×5.5	A	佛經殘片	61
138	LM20_1520_12_03	無量壽經優波提舍願生偈		T26_1524_0232b21-23	4.2×4.8	C2	佛經殘片	145
139	LM20_1520_12_04	無量壽經優波提舍願生偈		T26_1524_0232b23-24	3.7×3.3	C2	佛經殘片	145
140	LM20_1460_33_19	無量壽經優波提舍願生偈		T26_1524_0232c03-07	5.0×8.5	C3	經帖十一	145
141	LM20_1464_09_13	觀無量壽經義疏		T37_1749_0174a28-b02	10.0×7.2	C3	經帖十五	148
142	LM20_1458_13_13	觀無量壽經義疏		T37_1749_0185a08-14	11.2×8.1	D	經帖九	180
143	LM20_1452_35_06	觀無量壽經義疏		T37_1749_0186a24-b01	7.6×5.5	D	經帖三	180
144	LM20_1464_35_04	觀經正宗分定善義	卷第三	T37_1753_0268a01-11	14.7×8.2	C3	經帖十五	148
145	LM20_1451_30_01	阿彌陀經疏		T37_1757_0310c25-0311a05	15.2×9.6	C3	經帖二	148
146	LM20_1508_1455	阿彌陀經疏		T37_1757_0317c14-16	5.7×3.8	C3	寫經殘片	148
147	LM20_1451_37_18	阿彌陀經疏		T37_1757_0317c17-18	5.5×3.7	D	經帖二	180
148	LM20_1511_0054	阿彌陀經疏		T37_1757_0320c11-22	4.6×7.8	D	寫經殘片	180
149	LM20_1507_1134	安樂集	卷上	T47_1958_0004b29-c03	9.5×5.4	C3	經文殘片	151
150	LM20_1502_100	安樂集	卷上	T47_1958_0004c01-06	11.4×8.3	C3	經文殘片	*
151	LM20_1465_20_03	淨土論	卷下	T47_1963_0100c18-22	7.8×4.1	C3	經帖十六	151
152	LM20_1456_23_20	往生禮讚偈	一卷	T47_1980_0438c13-17	9.6×8.5	C3	經帖七	151
153	LM20_1468_16_01	往生禮讚偈	一卷	T47_1980_0439a10-15	12.4×7.4	C3	經帖十九	151
154	LM20_1471_25_01	集諸經禮懺儀	卷上	T47_1982_0462b08-13	8.2×10.7	D	淨土一	182
155	LM20_1471_24_01	集諸經禮懺儀	卷下	T47_1982_0466a20-22	8.0×9.7	D	淨土一	181
156	LM20_1457_03_09	淨土五會念佛誦經觀行儀	卷下	T85_2827_1265c08-10	6.9×3.6	C3	經帖八	154
157	LM20_1462_31_04	淨土五會念佛誦經觀行儀	卷下	T85_2827_1265c12-15	7.1×5.7	C3	經帖十三	154
158	LM20_1471_28_01	現在十方千五百佛名并雜佛同號		T85_2905_1447c25-27	10.0×5.7	C3	淨土一	157

A	B	C	D	E	F	G	H	I
159	LM20_1460_34_06	不明 (佛説阿彌陀經)			7.8×10.5	C3	経帖十一	164
160	LM20_1471_02_01	經題 (觀無量壽佛經)			7.1×5.4	C2	浄土一	165
161	LM20_1471_24_02	不明 (禮讃異本)			4.2×6.9	C3	浄土一	165
162	LM20_1471_25_02	不明 (禮讃異本)			10.2×6.0	D	浄土一	187
163	LM20_1471_28_02	不明			5.0×3.2	C3	浄土一	165
164	LM20_1471_28_02-2	不明			4.2×3.6	C3	浄土一	165
165	LM20_1471_28_03	不明			9.0×8.5	C3	浄土一	165

浄土三部經のうち『無量寿經』は古来「五存七欠」⁷⁾と言われ、現存する漢訳5本の中で康僧鎧訳と伝えられるものが浄土宗、浄土真宗で読誦されてきた。藤田宏達氏によれば、現存する五訳は以下の通りである⁸⁾。

- ①『阿弥陀三耶三仏薩樓仏檀過度人道經』〔通称『大阿弥陀經』〕二卷、呉・支謙訳 (222または223-228または253年) ただし異説がある。]
- ②『無量清浄平等覚經』四卷 (後漢・支婁迦讖訳〔実際は、魏・帛延 (または白延) 訳 (258年頃) と推定される。ただし異説がある])
- ③『無量寿經』二卷、曹魏・康僧鎧訳〔実際は、東晋・仏陀跋陀羅と劉宋・宝雲の共訳 (421年) と推定される]
- ④『無量寿如来会』二卷 (『大宝積經』第五会・卷一七・卷一八)、唐・菩提流支訳 (706-713年)
- ⑤『大乘無量寿莊嚴經』三卷、宋・法賢訳 (991年)

この他に、百濟康義氏によって紹介されたイスタンブール大学所蔵の新異訳〈無量寿經〉写本がある。ドイツ探検隊が将来して、後にトルコにもたらされた写本である。当該写本は上下の界線も見え、トルファン写本としては非常に整った写本で33行からなる。北朝前期の末期450年から遅くとも500年までに書写されたと見られている⁹⁾。百濟氏によって「漢訳された〈無量寿經〉の一部分であること、しかしながら現行の〈無量寿經〉漢訳五本の何れとも一致しないこと」¹⁰⁾が論じられている。

そして、このほど、百濟氏が報告された異訳とも異なる新たな〈無量寿經〉異訳が旅順博物館所蔵の写本の中にあることが判明した。つまり大正大藏經に平行テキストのない〈無量寿經〉が発見されたのである。上記リストの通番号33～37の5

断片がそれである。すでに図版は公開されているが、本稿では、その竺法護訳の可能性に言及するものである。

4 先行研究

〈無量寿經〉には時代によって、初期〈無量寿經〉 (『大阿弥陀經』・『平等覚經』の漢訳二本) と後期〈無量寿經〉 (『無量寿經』『如来会』『莊嚴經』、サンスクリット本、チベット訳の五本) がある。現行の『無量寿經』は康僧鎧訳でなく、仏陀跋陀羅と宝雲の共訳でほぼ一致を見ているが、初期〈無量寿經〉の訳者については諸説があり、未決の問題である¹¹⁾。

香川孝雄氏は『無量寿經』に関する諸本を対照研究され、「『大阿弥陀經』の場合は、訳語に検討を加えた結果、どう見ても支謙訳を認めることができない。道安や僧祐のごとき有力な判定をも敢えて支謙の誤りと退けて、支婁迦讖訳の説をとりたい¹²⁾。」とされ、また、「『平等覚經』は竺法護によって、永嘉二年 (三〇八年) に長安西方の天水において、世の中の騒然とした情況の下で一避難民の身でありながら翻訳されたということになるであろう¹³⁾。」と結論づけておられる。

藤田宏達氏は、『大阿弥陀經』→『平等覚經』のいう順に成立し、「『大阿弥陀經』の訳者としては、第一に支謙が妥当であると考え。もちろん支婁迦讖訳も退けられるべきものではないから、(中略) 第二説として考慮しておきたい。(中略) 『大阿弥陀經』が〈無量寿經〉の最古の漢訳であることは疑いないのである¹⁴⁾。」とされ、また、『平等覚經』については、「第一に、帛延 (または白延) 訳説を採るが、しかし第二に前梁・帛延訳説、第三に竺法護訳説も考慮しておくことにしたい。本經の訳出年代は、(中略) 支謙以降、羅什以前の、いわゆる古訳時代に位置づけられること

には変わりがないのである¹⁵⁾。」と諸説を認める立場も表明しておられる。

藤田氏は、「浄土三部経の諸本対照表」を作成され、写本を含む浄土三部経のほとんどすべての文献について整理しておられる。藤田氏の調査は漢訳だけでなく、サンスクリット本(写本・刊本)、チベット訳、コータン語訳をはじめ、ソグド語・ウイグル語・西夏語・モンゴル語・満州語の重訳にも及んでいる。少し長くなるが、藤田氏の見解を引用する。

道安当時はどうかといえ、現存の『平等覚経』が存在していたことは疑いないから、これとは別に竺法護訳「無量寿経」が存在していたということになろう。(中略)なぜ『平等覚経』の中にまったく用いられていない「無量寿」の名をもって経名としたかという難点が生ずる。これは、竺法護の他の訳経に「無量寿」の訳名を用いたためである、と解しえないこともないが、やはり氷解というわけにはいかない¹⁶⁾。

とされる。『無量寿経』の敦煌・トルファン出土写本については、敦煌本16点、トルファン本2点の計18点を数え、漢訳異本については、『大阿弥陀経』が大英図書館スタイン本に1点(S.5058)、ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵本に3点(R:Дх2927, 5217, 11682)あり、『平等覚経』の断片がスタイン本1点(S.408)あると、整理されている¹⁷⁾。そのうち、『無量寿経』のトルファン写本1点に数えられている『二楽叢書』第1号所収の写本については、「三部経の断片は活字印刷のみで写真は掲載されていないし、現物も見ることができない。すべて小さな断片で破損が甚だしいようである。『無量寿経』については断片13紙の間で字句の重複する場合が1例あり、少なくとも2点の写本が存在したこと¹⁸⁾」が分かったとされており、現在、旅順博物館に所蔵されている浄土教写本については、二楽叢書の釈文によっておられる。

5 旅順博物館所蔵〈無量寿経〉写本

本稿で提示する旅順博物館所蔵写本は、現行の『無量寿経』所収テキストと相違し、明らかに初

期〈無量寿経〉の形態を示している。しかも、用語や字句において現行の『大阿弥陀経』『平等覚経』と一致していない。このことを知る契機となったのが、以下に挙げる第一断片(上記リスト通番号33)である。断片番号LM20_1490_14_01¹⁹⁾は、第2行目の冒頭部が欠損しており、冒頭の文字は解読困難であったが、他の断片から類推して一応『佛説無量清浄平等覚経』(T12_0361_0293b16-20)に同定しておいたのである。

筆跡の点からも、トルファン出土写本の中でも4-5世紀の隸書風の書体であり、紙質、界高など、総合的に判断して、北朝前期(3世紀末-5世紀前半(AA²⁰⁾)に属する最古級の浄土教写本であることが分かる。

以下にその釈文を記載する。

釈文

凡例

- ・行番号を冒頭に示した。
- ・断片番号の意味するところは以下の通り²¹⁾。

例) LM20_1450_01_01

LM=Lushun Museum旅順博物館、20_1450=新疆出土文物の整理番号(同館では「20.1450」と表記される)、01=第1ページ、01=第1断片

- ・校異は、『大阿』:『佛説阿弥陀三耶三佛薩樓佛檀過度人道經』〔通称『大阿弥陀経』〕大正12, No. 362

『平等』:『佛説無量清浄平等覚経』大正12, No.361

『無量』:『佛説無量寿経』大正12, No.360

- ・□:未判読文字(大正蔵でも復元できない場合)
- ・[]:欠損文字を示す。筆画が残存している部分で大正蔵より類推可能な文字については、判読の可否を問わず、半角括弧で示す。
- ・〔 〕:写本に欠如した部分を示す。大正蔵から補える箇所については文字を入れる。但し、第一行目行頭部分と最終行の行末に文字が残っていない部分がある場合は、文字数の確定が困難なため、先端または末尾の括弧は閉じない。

LM20_1490_14_01 (「涅槃般若經二」)

當復何益但心中悵悵慕及等爾佛
言阿彌陀佛國諸菩薩阿羅漢衆等大道聚
會自然都集拘心制意端身正行遊戲洞達俱

01 其後〕當復〔何〕〔益〕〔但心中〕〔悵悵慕及等爾佛
02 言無量〕〔壽〕佛國諸菩薩阿羅〔漢衆等大〕〔道聚
03 會自都〕〔集拘心制〕〔意端身正〕〔行遊戲洞達〕俱
校異

02壽=陀：『大阿』、淨：『平等』

02-03：『平等』より補う。

『大阿』 T12_0362_0311b28-c03

其後當復何益但心中悵悵慕及等爾佛
言阿彌陀佛國諸菩薩阿羅漢衆等大道聚
會自然都集拘心制意端身正行遊戲洞達俱

『平等』 T12_0361_0293b16-20

其後當復何益但心中悵悵慕及等耳佛言
無量清淨佛國諸菩薩阿羅漢衆等大道聚
會自都集拘心制意端身正行遊戲洞達俱

LM20_1462_29_01 (「經帖十三」)

經行道和好習才
猛智慧志若虛空精
進求願心終不復中
迴意終不復轉終無
有懈極時雖求道
外若遲緩內獨駛
疾容容虛空中適
得其

01 〕□〔

02 共觀〕經行道和好〔習文〕〔才猛智慧志若虛空精
03 進〕〔求願〕心終不復中轉終無有〔懈極時〕〔雖求道
04 外若遲緩〕〔內〕獨急疾容容虛空這得〔其〕〔

校異

02習文=文習：『平等』、久習：『大阿』（反転符号有れば文習）

03中轉：中徊意終不復轉：『大阿』・『平等』（徊=迴）

04獨=獨：『大阿』、獨駛：『平等』

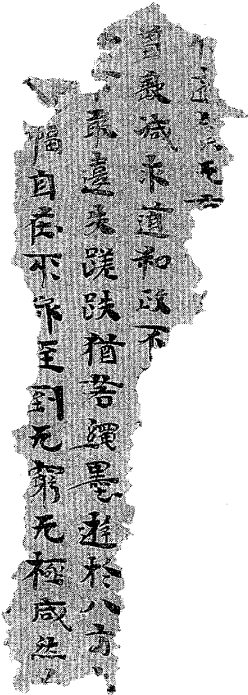
04虛空這=虛空適：『大阿』、虛空中適：『平等』

『大阿』 T12_0362_0311c04-07

共觀經行道和好久習才猛智慧志若虛空精
進求願心終不復中徊意終不復轉終無有懈極時雖求道
外若遲緩內獨駛疾容容虛空適得其

『平等』 T12_0361_0293b21-24

共觀經行道和好文習才猛智慧志若虛空精
進求願心終不復中迴意終不復轉終無有懈極時雖求道
外若遲緩內獨駛疾疾容容虛空中適得其



- 01 [所適貪無有] [衆惡瑕穢其志願皆安定殊好無]
 02 曾缺減求道和政不 [誤傾邪准望道法隨經]
 03 [令不] 敢違失蹉跌猶若繩墨遊於八方 [上] [下無]
 04 [有] [邊幅] 自在所 [欲] 至到無窮無極咸然 [為] [校異]

02曾 = 增：『大阿』・『平等』、政 = 正：『大阿』・『平等』

03猶若 = 若：『大阿』・『平等』

03繩墨遊於八方 = 於繩墨遊於八方：『平等』、於八方：『大阿』

『大阿』 T12_0362_0311c09-13

所適貪無有衆惡瑕穢其志願皆各安定殊好無

增缺減求道和正不誤傾邪准望道法隨經約

令不敢違蹉跌若於八方上下無

有邊幅自在所欲至到無窮無極咸然為

『平等』 T12_0361_0293b26-c01

所適貪無有衆惡瑕穢其志願皆安定殊好無

增缺減求道和正不誤傾邪准望道法隨經約

令不敢違失蹉跌若於繩墨遊於八方上下無

有邊幅自在所欲至到無窮無極咸然為



- 01 為虛無空 [立] [淡安無欲作德善願盡心求索含]
 02 哀慈愍精進中表 [禮義都] [合通洞無違和順]
 03 [副] 稱褒羅表裏解脫過度敢昇入於 [泥] [洄長與]
 04 [道] [德] 合明自然 [相] 保守善意滋滋真真 [了潔]
 05 [] □ □ []

校異

01『平等』より補う。

03褒 = 『大阿』、苞：『平等』、解脫過度 = 過度解脫：『大阿』・『平等』(過と度の間に反転符号有)

03敢 = 『平等』、能：『大阿』

03於 = 『平等』、欠：『大阿』

04善意 = 快意之：『大阿』・『平等』

04滋滋真真 = 『平等』、滋真滋真：『大阿』

『大阿』 T12_0362_0311c14-18

為虛無空立恢安無欲作得善願盡心求索含

哀慈愍精進中表禮義都合通洞無違和順

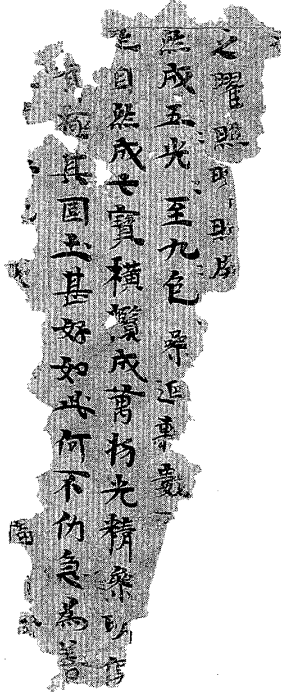
副稱褒羅表裏過度解脫能升入泥洄長與

道德合明自然相保守善意滋滋真真了潔

『平等』 T12_0361_0293c02-07

為虛無空立淡安無欲作德善願盡心求索含
哀慈愍精進中表禮義都合通洞無違和順
副稱苞羅表裏過度解脫敢昇入於泥洹長與
道德合明自然相保守快意之滋滋真真了潔

LM20_1453_17_03 (「經帖四」)



- 01 之曜照 [曜照開] [達明徹自然中自然相自然之有根本自]
02 然成五光五光至九色九色參 [迴轉] 數 [百] [千更變最勝之自]
03 [然] 自然成七寶橫攬成萬物光精參 [明俱] [出好甚殊無]
04 [有] 極其國土甚好如此何不力急為善 [念道之
05 自] [然著於無上] [下洞達無邊] [幅捐志] [

校異

01曜=耀：『大阿』・『平等』

01曜照開=耀照亘開：『大阿』、照一旦開：『平等』（元本は亘）

02『平等』より補う。

04甚好如此=甚若此：『大阿』、甚殊好若此：『平等』

04不力急=不力：『大阿』・『平等』

『大阿』 T12_0362_0311c20-26

之曜照曜照亘開達明徹自然中自然相然之有根本自
然成五光五光至九色九色參迴轉數百千更變鬱單之自
然自然成七寶橫攬成萬物光精參明俱出好甚殊無
有極其國土甚若此何不力為善念道之
自然著於無上下洞達無邊幅捐志

『平等』 T12_0361_0293c08-14

之曜照照一旦開達明徹自然中自然相自然之有根本自
然成五光至九色五光至九色參迴轉數百千更變最勝之自
然自然成七寶橫攬成萬物光精參明俱出好甚殊無
有極其國土甚殊好若此何不力為善念道之
自然著於無上下洞達無邊幅捐志

第1断片は、『大阿』・『平等』とほぼ一致するものの「無量壽佛國」という用語がいずれにも存在しない。また、第2断片は、「文習」という訳語を持つ点で『平等』に近く、第3断片にある「若繩墨遊於八方」と言う表現が、『平等』にのみ見られ、第4断片も細部の相違はあるがほぼ『平等』に同定できよう。第5断片は、写本に見えていない箇所にも異同があるが、残念ながら破れているためどちらとも決定しがたい。つまり、この5断片は、書体をはじめ紙色・紙質などの点で、同

一写本の離片であることは疑い得ないが、その内容を吟味すると、初期〈無量壽經〉の中で、いずれかに決定するとすれば『無量清淨平等覺經』に近いとは言えるであろう。特に断片の「無量壽佛國」という表現は、いずれにも存在しない用語であることから、当該写本が、現行漢訳に該当しないテキストを持っていることになる。初期〈無量壽經〉として、相互に非常に類似している『大阿彌陀經』と『無量清淨平等覺經』とが、二本として扱われているように、単なる訳語の相違とは言

えない重要な相違であり、別テキストとして理解しなければならないであろう。

以下、上記5断片の録文に『平等』大正蔵から補ったテキストを補足して提示する。

テキストの復元

- 01 其後當復何益但心中悵悵慕及等爾佛
- 02 言無量壽佛國諸菩薩阿羅漢衆等大道聚
- 03 會自都集拘心制意端身正行遊戲洞達俱
- 04 相隨飛行幡輦出入供養無極歡心喜樂樂
- 05 共觀經行道和好習文才猛智慧志若虛空精
- 06 進求願心終不復中轉終無有懈極時雖求道
- 07 外若遲緩內獨急疾容容虛空這得其中中表相
- 08 應自然嚴整檢斂端直身心淨潔無有愛欲有
- 09 所適貪無有衆惡瑕穢其志願皆安定殊好無
- 10 曾缺減求道和政不誤傾邪准望道法隨經
- 11 令不敢違失蹉跌猶若繩墨遊於八方上下無
- 12 有邊幅自在所欲至到無窮無極咸然為道
- 13 恢廓慕及曠蕩念道無他之念無有憂思自然無
- 14 為虛無空立淡安無欲作德善願盡心求索含
- 15 哀慈愍精進中表禮義都合通洞無違和順
- 16 副稱褒羅表裏解脫過度敢昇入於泥洹長與
- 17 道德合明自然相保守善意滋滋真真了潔
- 18 白志願高無上清淨定安靜樂之無有極善好無有比巍巍
- 19 之曜曜曜照開達明徹自然中自然相自然之有根本自
- 20 然成五光五光至九色九色參迴轉數百千更變最勝之自
- 21 然自然成七寶橫攬成萬物光精參明俱出好甚殊無
- 22 有極其國土甚好如此何不力急為善念道之
- 23 自然著於無上下洞達無邊幅捐志

この部分は、いわゆる「五惡段」の直前にあたり、香川孝雄氏の諸本対照²²⁾によると、サンスクリット本、チベット訳に対応箇所がなく、現行の『無量壽經』では、わずかに以下の部分が相当するのみである。(下線部は当該写本との平行箇所)

『無量壽經』T12_0360_0274b18-21

佛告彌勒菩薩諸天人等
無量壽國聲聞菩薩功德智慧不可稱說又其
國土微妙安樂清淨若此何不力為善念道之
自然著於無上下洞達無邊際

当該写本の「無量壽佛國」に相当する部分が

「無量壽國」となっているほか、後半部分がほぼ同一となっている点が注目される。この写本が「七欠」とどう関係するのかは、比較対象がないため決定することは不可能である。ただし、経名や、トルファン地区から出土した古写本の中に、元康六年(296)書写の『諸仏要集經』はじめ、竺法護訳のものが多数発見されている²³⁾ことが、何らかの手がかりとなるかも知れない。もちろん、未だ本写本の経題や奥書が見つかっておらず、現時点では確定できないものの、一つの可能性としては提示できるのではないかと考える。

6 新疆出土『無量壽經』類写本について

断片番号LM20_1490_14_01は、第2行目の冒頭部が欠損しており、冒頭の文字は解説困難であった。この文字が「淨」であれば『佛說無量清淨平等覺經』(T12_0361_0293b16-20)、「陀」であれば『大阿彌陀經』(T12_0362_0311b29-c02)となるが、他の写本との類推から比較的蓋然性の高い前者に同定したのであり、確信を持って決定したわけではなかった。

しかし、2005年の「旅順博物館蔵新疆出土漢文仏經国際学術研討会」に参加された新疆ウイグル自治区博物館館員・殷福蘭氏を通じ、同館所蔵の『佛說無量清淨平等覺經』写本の情報と画像データの提供を受けた。この写本を詳細に検討した結果、大正蔵所収テキスト(T12_0361_0299b04-23)と相違することが判明した。同館には、浄土經典の写本が、65TIN:39、65TIN:40、65TIN:42、65TIN:45の4件5点あり、『佛說無量清淨平等覺經』(65TIN:39、40、42、45)と『大阿彌陀經』(65TIN:39)に同定されている。『佛說無量清淨平等覺經』は、卷三(65TIN:39、40、45)と卷四(65TIN:42)に集中している²⁴⁾。

特に、65TIN:42は、大正蔵で「無量清淨佛國」とある箇所について、写本中の8箇所すべてが、「無量壽佛國」となっていること、写本で「不退轉」と意識されている箇所が「阿惟越致」と音訳されていること、第十一佛から第十三佛の名称が挙げられるが、その訳語が相違していることなどである。ちなみに『大阿彌陀經』(呉月支國居士支謙譯)の当該箇所は、「阿彌陀佛國」となって

いる。

この写本は、旅順博物館所蔵写本とは接合しないものの、AA期に属するほぼ同時期の同系統の写本であり、『大正蔵』の現存テキストとは相違した異訳の無量寿経類と考えられる²⁵⁾。他機関との研究連携によって、不明箇所が明らかになることの証左であろう。

釈文

- 01 〕諸菩
02 〕〔爾〕時四□□□〔不〕退轉皆智慧勇猛
03□〔供養無央數諸〕佛心俱一時願欲往生皆當
(以上は別テキストと考えられる)
04生無量壽佛國他方異國第十一佛名
05辯超論其國有萬二千菩薩皆當往生
06〔無〕量壽佛國他方異國第十二佛名□
07□施其國有諸菩薩無央數諸不可
08〔復〕計皆不退轉皆智慧勇猛各供養
09無〔央〕數諸佛已心俱一時願欲往生皆
10當生無量壽佛國他方異國第〔十三佛〕名
11□□句其國有七百〔九十億〕菩薩。皆當
12往生無量壽佛國佛〔言是〕諸菩薩皆不
13〔退〕轉諸比丘僧中及小菩薩輩無央
14〔數皆〕〔當〕往生無量壽佛國不獨是第
15十四佛國中諸菩薩當往生也都〔八方〕
16上下無央數佛國諸菩薩輩各各是〕
17〔皆當往生〕無量壽〔佛國其〕〔無〕央數〔都〕
18〔共〕〔往〕會無量壽〔佛國〕〔大衆〕多不可計
19〔我〕但說八方上下無央數佛名字畫
20〔夜一〕〔劫〕尚未竟我但復說佛國諸比丘
21僧衆菩薩當往生無量壽佛國
22人數說之一劫不休止尚未竟我〔但為若
23〔曹〕〔總攬〕小說之耳
24〔佛語阿〕〔難〕莫能勝菩薩等其世間帝王〔人〕

校異 (04-24行まで)

- 04無量壽 = 阿弥陀：『大阿』、無量清淨：『平等』
05辯超論 = 和羅那惟于蔡蹠：『大阿』、慧辯：『平等』
06無量壽 = 阿弥陀：『大阿』、無量清淨：『平等』
06□□施 = 沸霸圖耶蔡：『大阿』、無上華：

『平等』

- 07諸不可 = 不可：『平等』
08不退轉 = 阿惟越致：『大阿』・『平等』
09已心俱一時 = 以一時俱心：『大阿』・『平等』(以 = 已：『大阿』三本・『平等』の元明本)
10無量壽 = 阿弥陀：『大阿』、無量清淨：『平等』
11□□句 = 隨呵闍祇波多蔡：『大阿』、樂大妙音：『平等』
12不退轉 = 阿惟越致：『大阿』・『平等』
14無量壽 = 阿弥陀：『大阿』、無量清淨：『平等』
14第 = 欠：『大阿』・『平等』
18無量壽 = 阿弥陀：『大阿』、無量清淨：『平等』
21無量壽 = 阿弥陀：『大阿』、無量清淨：『平等』
22莫能勝 = 阿逸：『大阿』・『平等』

『大阿』 T12_0362_0317b03-21

- 04生阿彌陀佛國他方異國第十一佛名
05和羅那惟于蔡蹠其國有萬二千菩薩皆當往生
06阿彌陀佛國他方異國第十二佛名沸
07霸圖耶蔡其國有諸菩薩無央數不可
08復計皆阿惟越致皆智慧勇猛各供養
09無央數諸佛以一時俱心願欲往皆
10當生阿彌陀佛國他方異國第十三佛名
11隨呵闍祇波多蔡其國有七百九十億菩薩皆當
12往生阿彌陀佛國佛言是諸菩薩皆阿
13惟越致諸比丘僧中及小菩薩輩無央
14數皆當往生阿彌陀佛國不獨是
15十四佛國中諸菩薩當往生也都八方
16上下無央數佛國諸菩薩輩各各是
17皆當往生阿彌陀佛國甚無央數都共
18往會阿彌陀佛國大衆多不可計
19我但說八方上下無央數諸佛名字畫
20夜一劫尚未竟我但復說諸佛國諸比丘
21僧衆菩薩當往生阿彌陀佛國
22人數說之一劫不休止尚未竟我但為若
23曹總攬都小說之爾
24佛語阿難阿逸菩薩等其世間帝王人

『平等』 T12_0361_0299b04-23

04生無量清淨佛國他方異國第十一佛名
05慧辯其國有萬二千菩薩皆當往生
06無量清淨佛國他方異國第十二佛名無
07上華其國有諸菩薩無央數不可
08復計皆阿惟越致皆智慧勇猛各供養
09無央數諸佛以一時俱心願欲往生皆
10當生無量清淨佛國他方異國第十三佛名
11樂大妙音其國有七百九十億菩薩皆當
12往生無量清淨佛國佛言是諸菩薩皆阿
13惟越致諸比丘僧中及小菩薩輩無央
14數皆當往生無量清淨佛國不獨是
15十四佛國中諸菩薩當往生也都八方
16上下無央數佛國諸菩薩輩各各如是
17皆當往生無量清淨佛國其無央數都
18共往會無量清淨佛國大衆多不可復計
19我但說八方上下無央數佛名字晝
20夜一劫尚未竟我但復說佛國諸比丘
21僧衆菩薩當往生無量清淨佛國
22人數說之一劫不休止尚未竟我但為若
23曹總攬都小説之耳
24佛語阿難阿逸菩薩等其世間帝王人

7 おわりに

旅順博物館に所蔵される5点の〈無量寿經〉写本の漢訳者が一体誰なのか、現時点では決定することはできないが、この資料が竺法護訳出の〈無量寿經〉の可能性を否定することもできない。その場合は、初期の〈無量寿經〉とおそらく同一もしくは非常に類似したテキストからの翻訳であろう。

先述した通り、百濟氏が発見されたイスタンブル大学所蔵の写本（No.31-I²⁶⁾）により、〈無量寿經〉は五存ではなく「六存」であることを知らしめることになった。今回旅順博物館との共同研究の過程で明らかとなった写本も、断片的ではあるが、やはり現行の諸〈無量寿經〉テキストとは異なるものであることが判明した。新疆ウイグル自治区博物館所蔵写本によって、旅順博物館所蔵資料の中で不明であった一字を読むことができたばかりでなく、初期〈無量寿經〉に属する新たな写本の存在をも提示させるものとなった。

香川孝雄氏は、『平等覚經』を竺法護訳であるとされているが、その根拠の一つが、訳語の問題であった。竺法護が「すでに漢訳されてあった經典を参酌して、改訳する必要のないところは、前代の訳をそのまま使用している場合がある²⁷⁾。」といわれるが、これをそのまま当該写本に適用することも可能である。また、新疆ウイグル自治区の写本では、『大阿弥陀經』『平等覚經』ともに「阿惟越致」とある箇所が「不退轉」、同様に「阿逸菩薩」が「莫能勝菩薩」と意識されており、むしろこちらの方が、支謙訳²⁸⁾（あるいは竺法護訳）にふさわしいと考えられるのである。

さらに『道安錄』（374年頃）に記載され、『出三藏記集』（502-515年頃）卷二に記し、『法經錄』（594年）、『歷代三寶紀』（597年）、仁寿錄』（602年）、『大唐内典錄』（664年）、『静泰錄』（666年）、『古今訳経図紀』（-640年-）、『武周錄』（695年）、『開元錄』（730年）、『貞元錄』（800年）が、例外なく、竺法護訳を記載している点は見逃せない。これは支謙訳『大阿弥陀經』も同様であるが、これについては藤田宏達氏をはじめとする多くの学者がその存在を支持している。一方で竺法護に〈無量寿經〉の翻訳がされたことは分かっているが、それが現行のどれかの經典にあたることを決定することは困難であろうと考える。その場合、新たな初期〈無量寿經〉写本が発見された場合、少なくともその候補として挙げることは承認されるであろう。

竺法護は、太始二年（266）『須真天子經』から永嘉二年（308）『無量壽經』（1月21日）『普曜經』（5月）までの42年間翻訳活動を行ったという²⁹⁾。

『出三藏記集』卷二には、

「無量寿經二卷 一名無量清淨平等覚經」³⁰⁾

「竺法護無量寿二卷を出だす。或いは無量清淨平等覚と云う。」³¹⁾

藤田宏達氏は、「「無量清淨」という仏名が、竺法護訳の經典にはまったく認められぬことである。竺法護は阿弥陀仏名としては、「阿弥陀」と「無量寿」あるいは「無量」という訳語を使っているだけで、「無量清淨」という語を用いることは決してない³²⁾。」とされ、竺法護の訳語に「無量寿」の語があることを示しておられる。

現存經典名と重複していることが、問題を複雑

化させていると思われる。現行の『平等覚経』および『無量寿経』とは別名の、しかも現行の『平等覚経』に類似した竺法護訳の〈無量寿経〉があったと考えれば、訳語の齟齬の問題は解決できるのではないだろうか。このことについては、別稿を期したいが、これらの写本によって、香川氏の見解も、藤田氏の見解も齟齬なく解決できるのではあるまいか。「無量寿（仏国）」という言葉が多用されている当該写本は、むしろ『無量寿経』という経題の方が適切である³³⁾。現存しない竺法護訳に近接した訳の可能性を示すものとする。

もちろん、訳者の決定には種々のハードルがあり、本稿では、積極的に竺法護訳であることを結論づけるだけの根拠を持ち合わせていない。ただ、竺法護訳でないと断ずることもできないであろう。現時点では、資料を提示するにとどめ、暫定的に可能性を残しつつ、今後、大英図書館国際敦煌プロジェクト (International Dunhuang Project) によって進められている、世界の写本がウェブ上で閲覧可能となれば、さらに多くの断片が接合または関連資料として補強してくれるであろう。

以下、この写本が竺法護のものとは仮定した場合の成立の状況を示しておきたい。(①から⑤は「五存」)

- 1 『大阿弥陀経』訳出 (支謙 (222-253の間) あるいは支婁迦讖 (178-189の間)) → 現行の支謙訳①
- 2 『平等覚経』訳出 (帛延 (白延) 256-259頃) → 現行の帛延訳②
- 3 竺法護訳成立 (308年) → 写本として流布 (後に欠本)
- 4 『道安録』に記載 (374年頃) (無量寿経)
- 5 『無量寿経』訳出 (仏陀跋陀羅・宝雲共訳421年) (新無量寿経) → 現行の康僧鎧訳③
- 6 『無量寿如来会』(菩提流支訳706-713年) ④
- 7 『大乘無量寿莊嚴経』法賢訳991年) ⑤

【注】

- 1) 大谷探検隊収集資料の国内外の所蔵状況は以下の通りである。
国外にあるもの
・ A群・・・中国に保管されているもの
A-1群・・・旅順博物館所蔵コレクション
A-2群・・・中国国家図書館所蔵コレクション

- ・ B群・・・韓国に保管されているもの
B群・・・ソウル国立中央博物館所蔵コレクション

国内にあるもの

- ・ C群・・・日本の国立博物館に保管されているもの
C-1群・・・東京国立博物館所蔵コレクション
C-2群・・・京都国立博物館所蔵コレクション
- ・ D群・・・龍谷大学に保管されているもの
D-1群・・・大谷家寄贈分 (木箱二個内のコレクション)
D-2群・・・探検隊将来敦煌写経若干巻 (西域文化資料501-537)
D-3群・・・橘瑞超氏寄贈敦煌写経六巻
D-4群・・・吉川小一郎氏寄贈分 (写真原板、流沙残闕)
D-5群・・・堀賢雄、渡辺哲信の日記 (『新西域記』未収分)

- ・ E群・・・個人・機関の手にあるもの
藤枝晃「大谷コレクションの現状」『仏教東漸—祇園精舎から飛鳥まで』(龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会) 1991, pp.223-230。

その他、臺信祐爾氏によれば、出光美術館、MOA美術館、シルクロード研究所、天理大学付属図書館、東京大学東洋文化研究所、根津美術館に所蔵されているとされる。臺信祐爾「龍谷大学コレクションを除く日本国内に現存する大谷探検隊将来遺品について」『西本願寺仏教伝播の道踏査100年展 絲綢路の至宝』(佐川美術館, 2002) p.21。

藤枝晃「大谷コレクションの現状」『仏教東漸—祇園精舎から飛鳥まで』(龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会) 1991, pp.223-230。

- 2) 図録：旅順博物館・龍谷大学共編『旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典断片選影』法蔵館、2006

論文集：旅順博物館・龍谷大学共編『中国旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典研究論文集』京都：龍谷大学仏教文化研究所・西域研究会、2006

- 3) これまで日本国内では、以下の展覧会が開催されている。

- ①1988年「中国遼寧省文物展—遼寧省博物館・旅順博物館コレクションから—」神奈川県立歴史博物館
- ②1992年～1993年「旅順博物館所蔵品展—幻の西域コレクション」、京都文化博物館 (京都新聞社主催) ほか、高松、名古屋、東京、福岡で巡回開催 (87件114点)
- ③2002年4月16日～7月14日「絲綢路の至宝—旅順博物館仏教芸術名品展」、佐川美術館 (83件92点)

④2007年7月14日～8月26日「旅順博物館展—西域仏教文化の精華」旅順博物館展実行委員会、青森県立美術館

④では、過去最大の100点が出陳され、過半数の51点が日本初公開であった。しかも、中国の国宝に当たる一級文物が15点、新疆地区の文物が64点を占めた。

4) 断片を貼付した「藍冊」と称する資料の全容は以下の通りである。

総冊数・・・52冊(大冊41、小冊11)

形 状・・・台紙を連ねた折本型(大冊は38ページ、「浄土一」は29ページ)

大きさ・・・大冊 45.3×30.2×5.1cm
(20.1489「涅槃般若一」で計測)

小冊 24.2×18.2×4.7cm (20.1493「経文断片」で計測)

表 紙・・・以下の3種の整理ラベルなどが添付されている。

①日本人による整理ラベル

②ソ連統治下で押された整理スタンプ

③旅順博物館の整理番号(20.1450～20.1501)

断片数・・・16,035点(大冊合計13,667+小冊合計2,368)

・大冊には、一冊につき58点から1,118点、平均約333点の断片が貼付されている。

・小冊には、一冊につき166点から324点、平均約215点の断片が貼付されている。

内 容・・・

大冊:「経帖一」～「経帖二十一」、「浄土一」、「経帖焼」、「焼経」、「外経一」、「外経二」、「法華経第一帖」～「法華経第十帖」、「木版経一」、「木版経二」、「涅槃経」、「涅槃般若経一」、「涅槃般若経二」(41冊)

小冊:「経文残片」11冊

5) 「藍冊」を含む総断片データ数27,620点のうち既定分15,405点をもとに、主要な経論の割合を算出したものが以下のリストである。法華経や涅槃経が多く、浄土経論が非常に少ないことが窺える。なお点数については、今後の研究により変動する可能性もあるため、概数にとどめる。

・法華経・・・約4020点(約26%)

・涅槃経・・・約2820点(約18%)

・般若経類・・・約1920点(約12%)

・大般若経・・・約780点(約5%)

・金光明経・・・約650点(約4%)

・大智度論・・・約490点(約3%)

・浄土経論・・・約160点(約1%)

6) 第二次、第三次探検に参加し、写本整理にもかかわった橘瑞超は、「摩尼ノ妙珠豈ニ徑寸ヲ以テ優劣ヲ論ゼンヤ半偈既ニ捨身ノ要アリ妙典字々尽ク法

舍利ニ非ラザルナシ」(『二楽叢書』第一号序文、1912)と記している。どんなに小さな断片であっても、それは「宝」であり、釈尊の遺骨にも匹敵する「法舍利」と受けとったのである。単なる反故や紙屑ではなく、どんなに小さな極小断片であっても、それを収集し持ち帰った理由は、考古学的発見への野心や学術的関心からではなかったであろう。

7) 藤田宏達氏は、唐の智昇の『開元録』(730年撰)に記載された十一訳に、その後、訳出された宋代の一訳を加えて、翻訳年代順に以下のように「五存七闕」を列強されている。

(1)『無量寿経』二卷、後漢・安世高訳〔闕〕

(2)『無量清浄平等覚経』二卷(また直ちに「無量清浄経」と云う)、後漢・支婁迦讖訳

(3)『阿弥陀経』二卷(内題に「仏説諸仏阿弥陀三耶三仏薩樓仏檀過度人道経」と云う)呉・支謙訳

(4)『無量寿経』二卷、曹魏・康僧鎧訳

(5)『無量清浄平等覚経』二卷、曹魏・帛延訳〔闕〕

(6)『無量寿経』二卷(また、「無量清浄平等覚経」と云う)、西晋・竺法護訳〔闕〕

(7)『無量寿至真等正覚経』一卷(一に「楽仏土楽経」と名づけ、一に「極楽仏土経」と名づく)、東晋・竺法力訳〔闕〕

(8)『新無量寿経』二卷、東晋・仏陀跋陀羅訳〔闕〕

(9)『新無量寿経』二卷、劉宋・宝雲訳〔闕〕

(10)『新無量寿経』二卷、劉宋・曇摩蜜多訳〔闕〕

(11)『無量寿如来会』二卷(『大宝積経』第五会・卷一七・卷一八)、唐・菩提流支訳

(12)『大乘無量寿莊嚴経』三卷、宋・法賢訳

藤田宏達『浄土三部経の研究』岩波書店、2007、pp.35-36。

8) 藤田宏達前掲書p.36

9) 藤田宏達氏は、当該写本が、「七闕」の中で最も近い『新無量寿経』二卷、曇摩蜜多(Dharmamitra、訳経年代424-442訳である可能性を示唆しておられるが、いずれにしても、百済氏の見解を受けて「五存」を「六存」に改めるべき新資料」と認識しておられる。藤田宏達前掲書p.38

10) 百済康義「漢訳<無量寿経>の新異本断片」『インド哲学と仏教』(藤田宏達博士還暦記念論集)平楽寺書店、1989、pp.389-390。

11) 『大阿弥陀経』を支謙訳とするのは、常磐大定、望月信亨、椎尾弁匡、平川彰、藤田宏達、静谷正雄、鎌田茂雄、稲城選恵などの諸氏であり、支婁迦讖訳を主張するのは境野黄洋、北川賢浄、塚本善隆、干潟龍祥、岩松浅夫、丘山新などの諸氏という。『平等覚経』が帛延訳との説は、加藤智学、椎尾弁匡、荻原雲来、泉芳璟、大野法道、春日井真也、干潟龍祥、藤田宏達、片山了仙の諸氏であ

り、竺法護訳説は、香川孝雄氏の他、境野黄洋、望月信亨、北川賢浄、小野玄妙、常盤大定、塚本善隆、津田左右吉、結城令聞、鈴木宗忠、稲城選恵の諸氏という。

香川孝雄『浄土教の成立史的研究』山喜房佛書林、1993, pp.17-39参照。

12) 香川孝雄前掲書p.27。

13) 香川孝雄前掲書p.51。香川氏は、「支謙の訳語は、出来る限り、中国人に理解できるように、意識語を用い、しかも簡略を好んだところに特色があるといえよう。(p.21)」とされて、音訳語の多い『大阿弥陀經』の訳者でないと決定される。

14) 藤田宏達前掲書p.46。

15) 藤田宏達前掲書p.53。

16) 藤田宏達前掲書p.79。

17) 藤田宏達前掲書pp.546-547。

18) 藤田宏達前掲書p.151。

19) 旅順博物館・龍谷大学共編『旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典断片選影』法蔵館2006, p.5に図版を掲載している。

20) 龍谷大学「西域研究会」では、以下に挙げる藤枝晃[1987][2005]、百濟康義[2003]の分期法に準拠しながら、新たな基準の策定を試みた。本稿で記載したAAの年代基準は、基本的に藤枝晃氏の業績によるところである。

AA・・・北朝前期 3世紀末—5世紀前半(北涼時代まで)

A・・・北朝後期 5世紀前半—6世紀中期(魏氏高昌國前期まで)

A'・・・高昌國期 6世紀前半—7世紀中期(魏氏高昌國滅亡まで)

C・・・唐代(7—10世紀)

C1・・・高昌國末期—唐時代

C2・・・唐時代

C3・・・唐時代—ウイグル期

DT・・・ウイグル期(9世紀中期—11世紀)

C1—C3は、藤枝分期法(AA, A, A', C, D)にはなく、旅順博物館所蔵資料を整理するにあたって、便宜的に設定したものである。

今後、できる限りのサンプリングを行い、より客観性のある、つまり今後どこでどのような写本が発見されてもある程度の判定が可能となるような標本の作成が求められる。また、同定結果や書体だけでなく、紙の形状・色・質などの情報が正確に得られれば、より精度の高い年代判定基準が確立されていくことになろう。現在、北海道大学名誉教授石塚晴通氏により、書写年代の確実な敦煌写本の文字標本が暫定的に公開されている。また、IDPの海外プロジェクトマネージャーImre GALAMBOS氏により、コンピュータ上で半自動的に文字を切り取り標本化するソフトの開発が行わ

れている。トルファン出土写本は、世界各国に分散されている。それらをただ研究者の直感のみにたよることなく、データベース化された基準に照らすことができるならば、さらに接合と復元を可能とするであろう。

・藤枝晃「中国北朝写本の三分期」『古筆と国文学』(古筆学叢林第一巻)古筆学研究所編、八木書店、1987, pp.3-36。

・藤枝晃編『トルファン出土仏典の研究—高昌殘影記録』法蔵館、2005。

・百濟康義「漢字文化圏の書と表現の跡」『書と表現の跡』(仏の来た道2003 大谷探検隊100周年・西域文化研究会50周年シルクロード文物展)、龍谷大学学術情報センター、2003。

21) 見開き単位で断片の通し番号が振られているもの(LM20_1489, 1490)があり、その場合は、左右両端に記入されたページ番号を優先してコード化した。なお、特殊な例として、見開き単位でページ数および断片の通し番号が与えられているもの(LM20_1474)があるが、A:右頁、B:左頁とし、LM20_1474_02A_04 LM20_1474_02B_05などとコード化した。各断片にはページ毎の通し番号が記入されたシールが貼付されているが、時に、番号が付されていないものがある。その場合は、直前の断片番号に-2, -3などの枝番号を付した。逆に、シールが貼付されていながら、断片が存在しない場合もある。LM20_1502以下の断片はファイルに貼付されておらず、通し番号が振られている。また、一つの紙袋に数点の断片が封入せられているものがあり、個別の断片番号が付せられていない場合もある。

22) 香川孝雄『無量寿經の諸本対照研究』永田文昌堂、1984, p.305。

23) 旅順博物館のトルファン出土写本中にAAからC1に属するものとして『諸仏要集經』14点、『佛說變悔喻經第四十一生經』2点、『普曜經』1点、『光讚經』19点、『正法華經』2点、『佛說無言童子經』1点、『阿差末菩薩經』1点、『彌勒菩薩所問本願經』1点、『佛說孟蘭盆經』1点、『佛說四不可得經』1点が見いだせる。

『諸仏要集經』については、拙稿「旅順博物館所蔵『諸仏要集經』写本について」『旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典研究論文集』(旅順博物館・龍谷大学共編、西域研究叢書4)、2006, pp.64-73参照。

24) 伊斯拉菲尔・玉苏甫／殷福兰(新疆维吾尔自治区博物馆)「新疆维吾尔自治区博物馆藏佛经」旅順博物館・龍谷大学共編『旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典研究論文集』西域研究会(龍谷大学西域研究叢書4)、2006, pp.258-261。

25) 百濟康義「漢訳〈無量寿經〉の新異本断片」『藤田

宏達博士還暦記念論集インド哲学と仏教』藤田宏達博士還暦記念論集刊行会、平楽寺書店、1989, pp.373-394。

- 26) 当該写本の整理番号については、当初31(a)Rという番号が振られており、「現在イスタンブール大学図書館に蔵されるガラス板の番号（中略）一つの下には、時に1点・時には10点近く（中略）保管されており、状況次第では、将来にそのガラス板番号が変更される可能性は十分にある。ガラス板番号に続くRは紙面の表を、Vは裏を意味し、(a)以下のアルファベットは1987年仮目録作成当時の（同じガラス板内部での）暫定的整理番号を示す。」百済康義「イスタンブール大学所蔵の東トルキスタン出土文献―特にその出所について―」『東方学』84, 1992, p.5 (144)。仮目録では、No.31-Iとされている。百済康義「漢訳＜無量寿経＞の新異本断片」『インド哲学と仏教』（藤田宏達博士還暦記念論集）平楽寺書店、1989, pp.373-394。
- 27) 香川孝雄『浄土教の成立史的研究』山喜房佛書林、1993, p.48。
- 28) 香川氏は、「意識が多い『平等覚経』は「支謙の訳でないかとも考えられる。（香川孝雄前掲書p.31）」

とも言われている。

- 29) 『歴代三寶記』巻第六（譯經西晉）「無量壽經二卷（永嘉二年正月二十一日譯。是第四出。）（T49_2034_0062b24）、『出三藏記集錄上』巻第二「自太始中至懷帝永嘉二年。以前所譯出。」（T55_2145_0009c01）
- 30) 『出三藏記集錄上』巻第二「無量壽經二卷（一名無量清淨平等覺經）」（T55_2145_0007c06）
- 31) 「無量壽經（支謙出阿彌陀經二卷竺法護出無量壽二卷或云無量清淨平等覺鳩摩羅什出無量壽一卷釋寶雲出新無量壽二卷求那跋陀羅出無量壽一卷）（T55_2145_0014a23）」
- 32) 藤田宏達前掲書p.48。
- 33) 僧祐の『出三藏記集』で、鳩摩羅什の翻訳に於いても「無量壽經一卷（或云阿彌陀經）（T55_2145_0011a04）」とあり、前注にも挙げた「無量壽經（支謙出阿彌陀經二卷竺法護出無量壽二卷或云無量清淨平等覺鳩摩羅什出無量壽一卷釋寶雲出新無量壽二卷求那跋陀羅出無量壽一卷）（T55_2145_0014a23）」とあるように、『阿彌陀經』と『無量壽經』とは同一の經典に対する名称として問題はないであろう。

其後當復何益但心中悵悵慕及等爾佛
言無量壽佛國諸菩薩阿羅漢等大道聚
會自都集徇心制意端身正行遊戲洞達俱
相隨飛行幡輦出入供養無極歡心喜樂樂
共觀經行道和好習文才猛智慧志若虛空精
進求願心終不復中轉終無有懈極時雖求道
外若遲緩內獨急疾容容虛空這得其中中表
相應自然嚴整檢斂端直身心淨潔無有愛欲有
所適貪無有衆惡瑕穢其志願皆安定殊好無
曾缺減求道和政不誤傾邪准望道法隨經
令不敢違失蹉跌猶若繩墨遊於八方上下無
有邊幅自在所欲至到無窮無極咸然為道
恢廓慕及曠蕩念道無他之念無有憂思自然無
為虛無空立淡安無欲作德善願盡心求索含
哀慈愍精進中表禮義都合通洞無違和順
副稱褒羅表裏解脫過度敢昇入於泥洹長與
道德合明自然相保守善意滋滋真直了潔潔
白志願高無上清淨定安靜樂之無有極善好無有比巍巍
之曜曜照開達明徹自然中自然相自然之有根本自
然成五光五光至九色九色參連轉數百千更變最勝之自
然自然成七寶橫攬成萬物光精參明俱出好甚殊無
有極其國土甚好如此何不力急為善念道之
自然著於無上下洞達無邊幅指志

LM20_1453_17_03

LM20_1462_35_01

LM20_1454_08_07

LM20_1462_29_01

LM20_1490_14_01

〈日本私立学校振興共済事業団・学術研究振興資金「旅順博物館所蔵仏教写本の学際的研究」による成果の一部〉